

平成30年度 新規就農者・雇用就農者調査結果（速報）

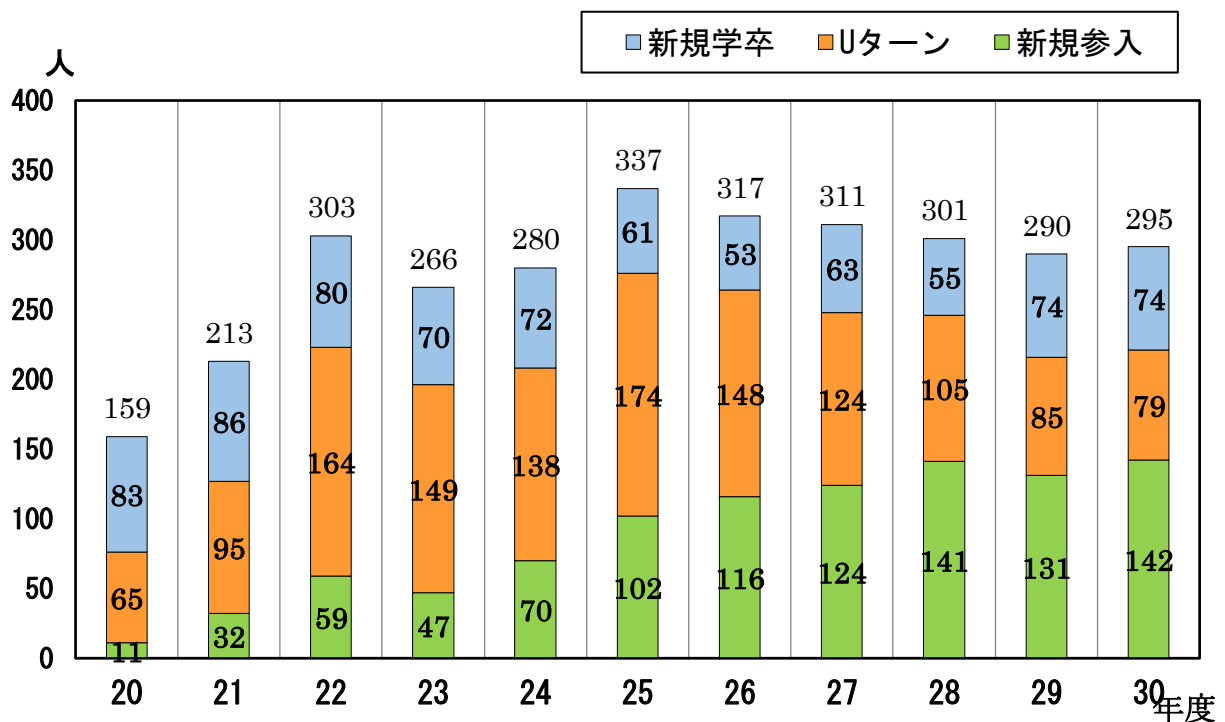
1. 新規就農者の動向

新規就農者数（新規学卒、Uターン、新規参入）の平成20年度以降の推移を見ると、平成20年度に159人だったが、その後増加し平成22年度は303人と大きく増加した。

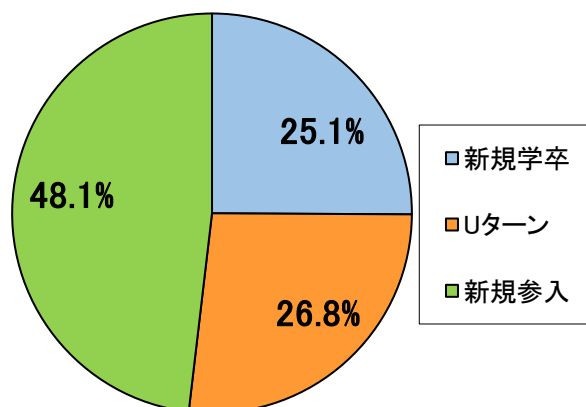
平成23年度は266人と減少したものの、平成24年度が280人、平成25年度は平成に入り最高人数の337人を記録した。

その後、平成26年度から平成28年度までの3年間は微減で推移したものの300人台を維持したが、平成29年度は290人となり300人を下回り、平成30年度は295人と微増となった。

年次別新規就農者の推移



平成30年度新規就農者の就農形態別割合



2. 地域別新規就農者数

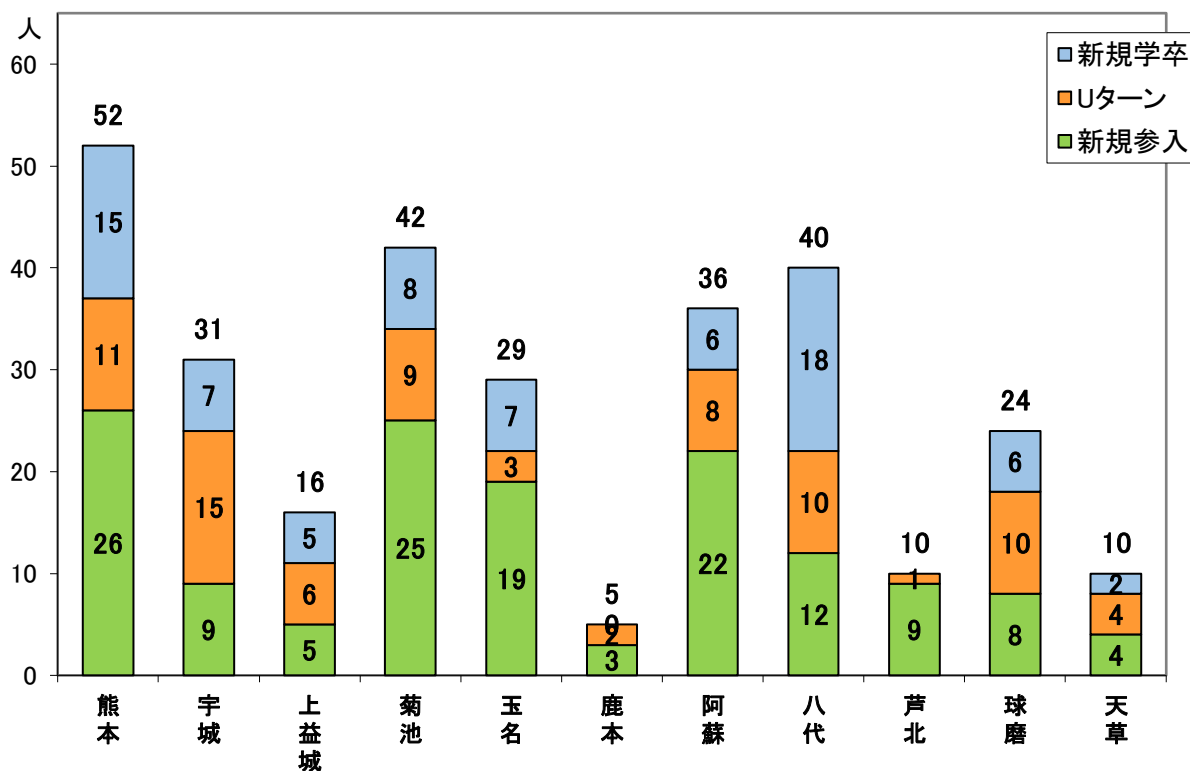
新規就農者を地域別で見ると、熊本地域が 52 人で最も多く、次いで菊池地域が 42 人、八代地域 40 人となった。

就農形態で見ると、「新規学卒」では、八代地域の 18 人が最も多く、次いで熊本地域の 15 人となった。

「Uターン」では、宇城地域が 15 人、次いで熊本地域が 11 人、八代地域、球磨地域が 10 人となっている。

また、「新規参入」では、熊本地域の 26 人が最も多く、次いで菊池地域 25 人、阿蘇地域の 22 人となった。

地域別新規就農者数

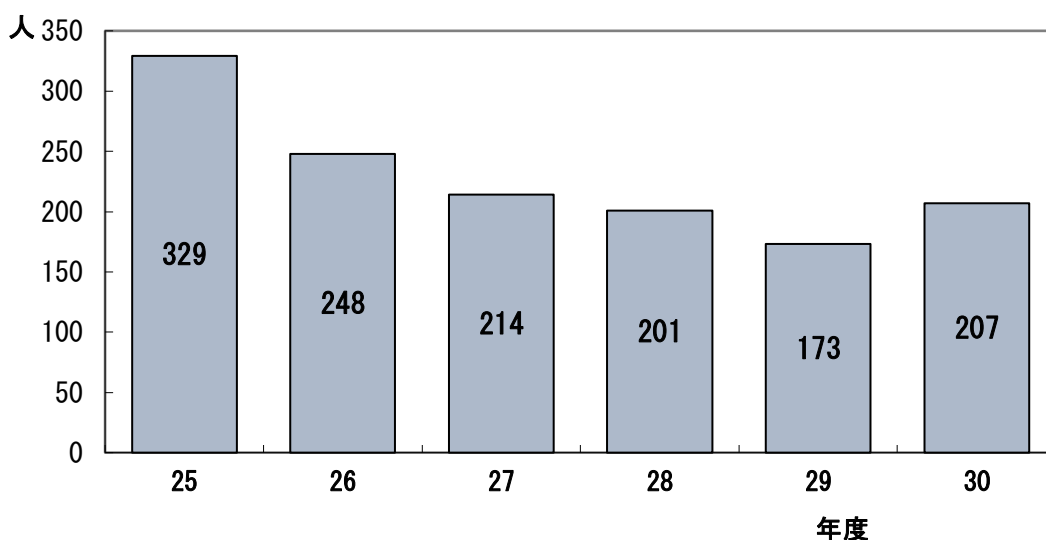


3. 雇用就農者の実態

近年、就農ルートが多様化している中で、一旦農業法人等へ就職して技術や経営のノウハウを学んだ後に就農する者が増加していることから、平成24年度から新たに、県内の農業法人（平成30年3月末、県下1,049経営体）等を対象に「雇用就農状況調査」を行っている。

平成30年には、207人が正規の従業員として雇用契約を締結し雇用就農し、昨年の173人から34人が増加した。

年次別雇用就農者の推移



4. 新規就農者の定着状況の実態

平成25年度から平成29年度までの過去5カ年間の定着状況について調査した結果、平成25年度に新規就農者した者のうち離農したのが25名、平成26年度に同14名、平成27年度に同10名、平成28年度に同1名、平成29年度に同5名となった。

区分	H25年度			H26年度			H27年度			H28年度			H29年度		
	就農者 (人)	離農者 (人)	離農率 (%)	就農者 (人)	離農者 (人)	離農率 (%)	就農者 (人)	離農者 (人)	離農率 (%)	就農者 (人)	離農者 (人)	離農率 (%)	就農者 (人)	離農者 (人)	離農率 (%)
親元就農	235	8	3.4%	201	9	4.5%	187	3	1.6%	160	0	0.0%	159	3	1.9%
新規参入	102	17	16.7%	116	5	4.3%	124	7	5.6%	141	1	0.7%	131	2	1.5%
計	337	25	7.4%	317	14	4.4%	311	10	3.2%	301	1	0.3%	290	5	1.7%

